

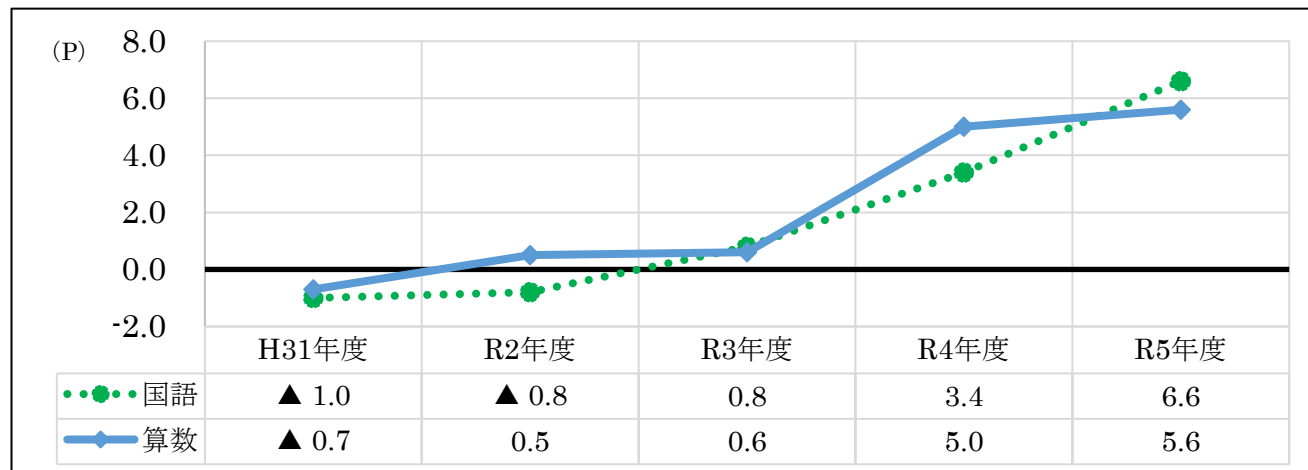
学力向上について

担当:教育指導課

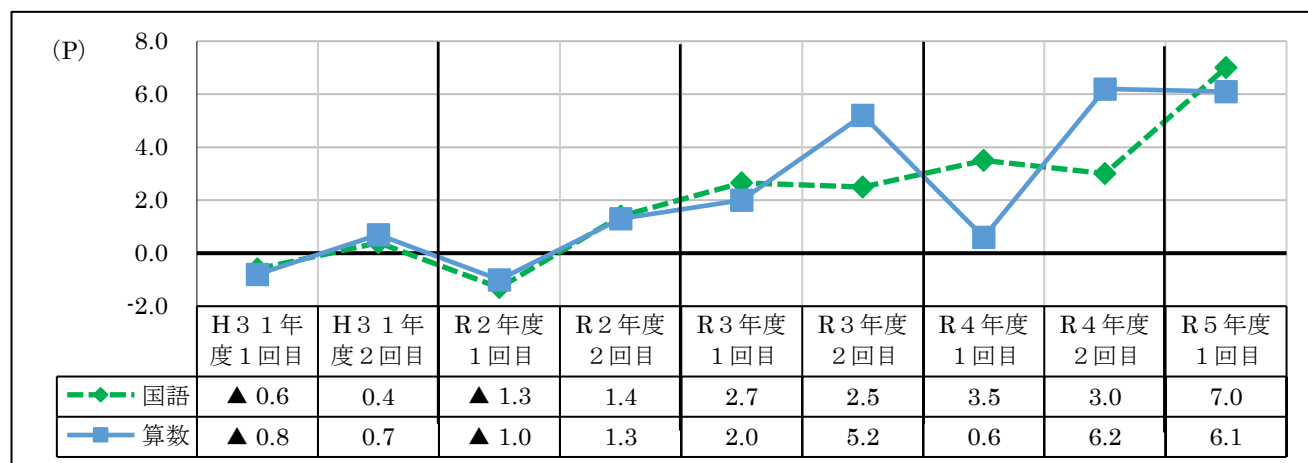
ー 令和5年度 第1回みえスタディ・チェックの結果について ー

みえスタディ・チェック 経年変化(数値は本市の平均正答率と県の平均正答率との差)

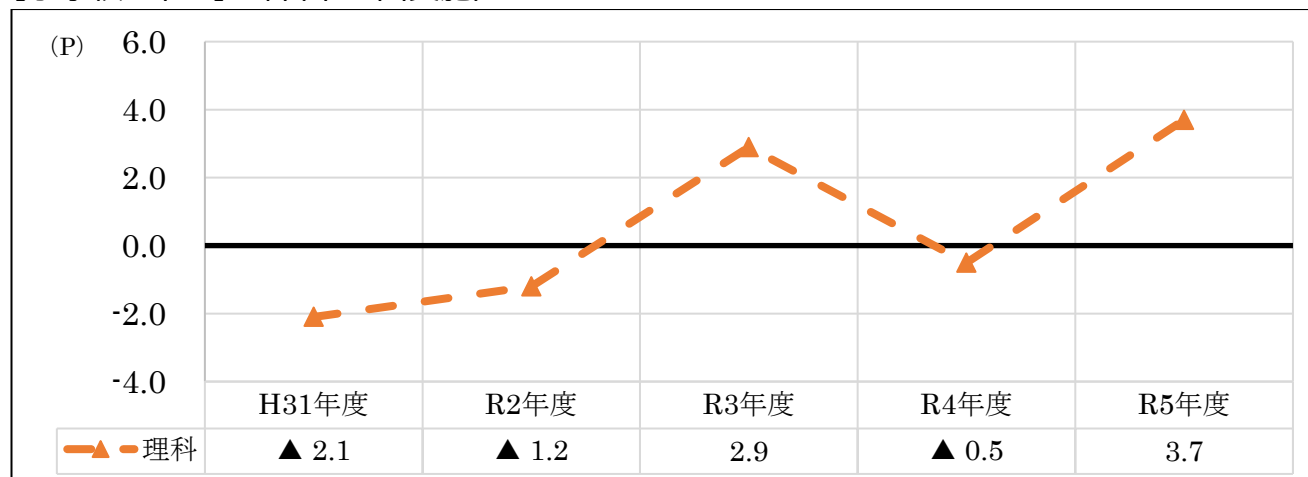
【小学校4年生】国語・算数(年 1 回実施)



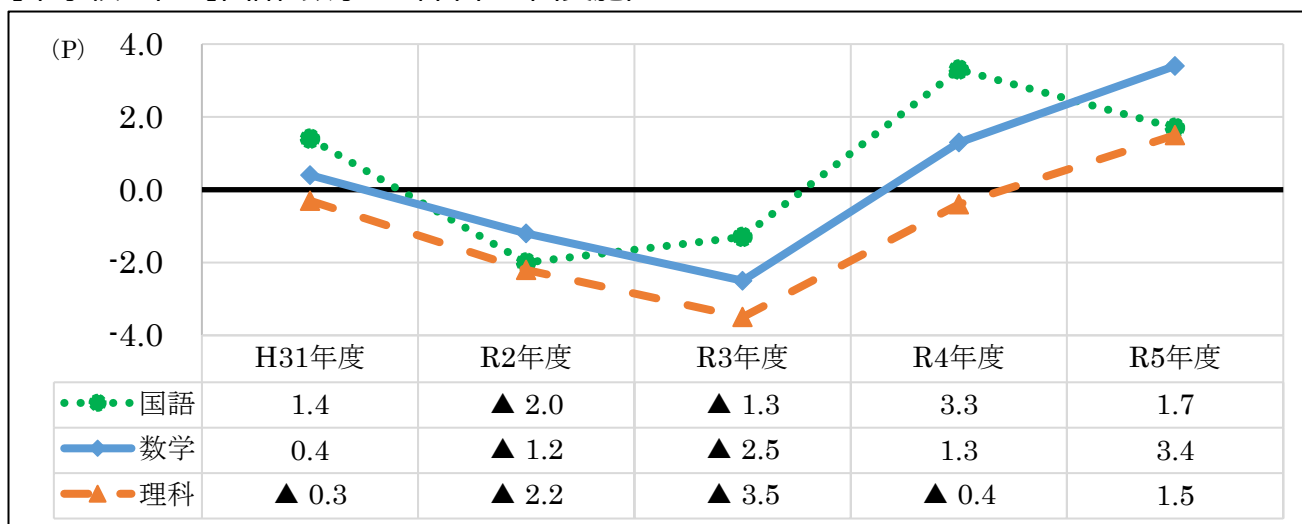
【小学校5年生】国語・算数(年 2 回実施)



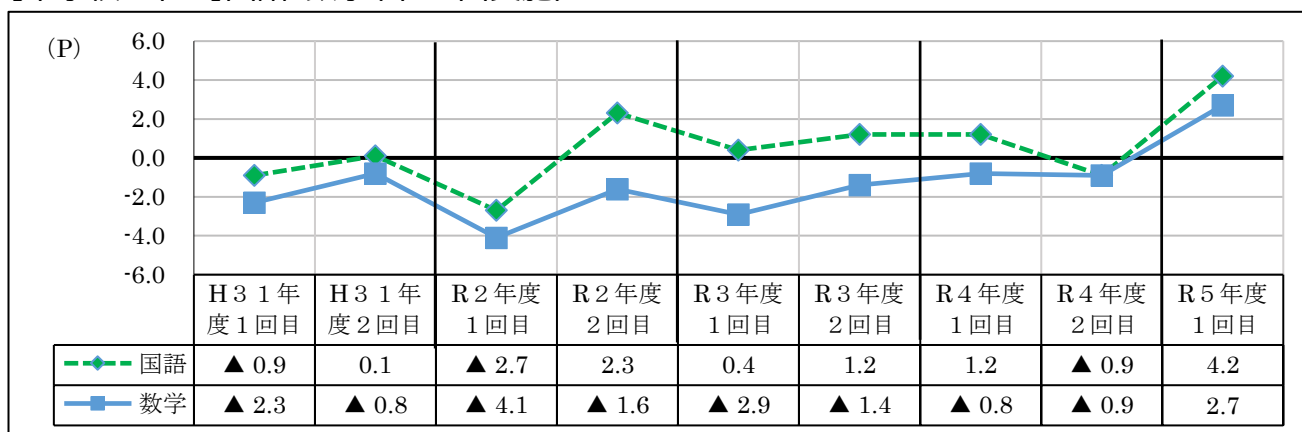
【小学校5年生】理科(年 1 回実施)



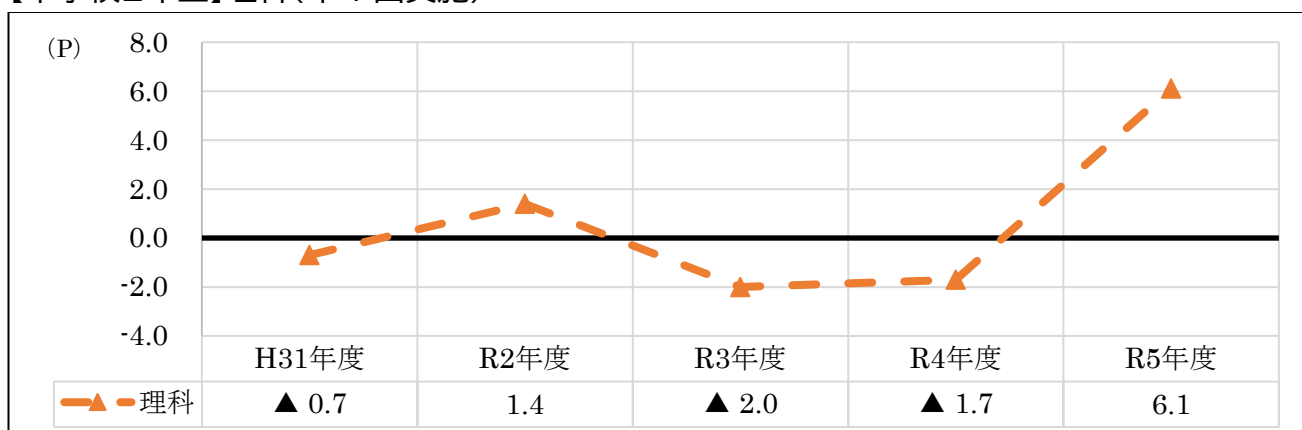
【中学校1年生】国語・数学・理科(年 1 回実施)



【中学校2年生】国語・数学(年 2 回実施)



【中学校2年生】理科(年 1 回実施)

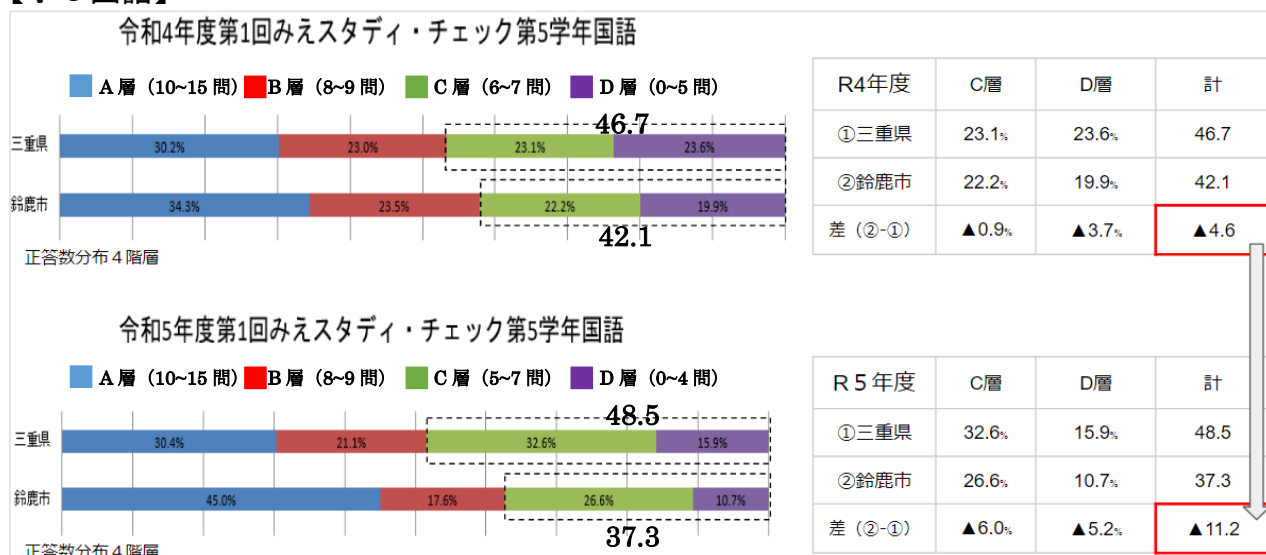


1 成果と課題

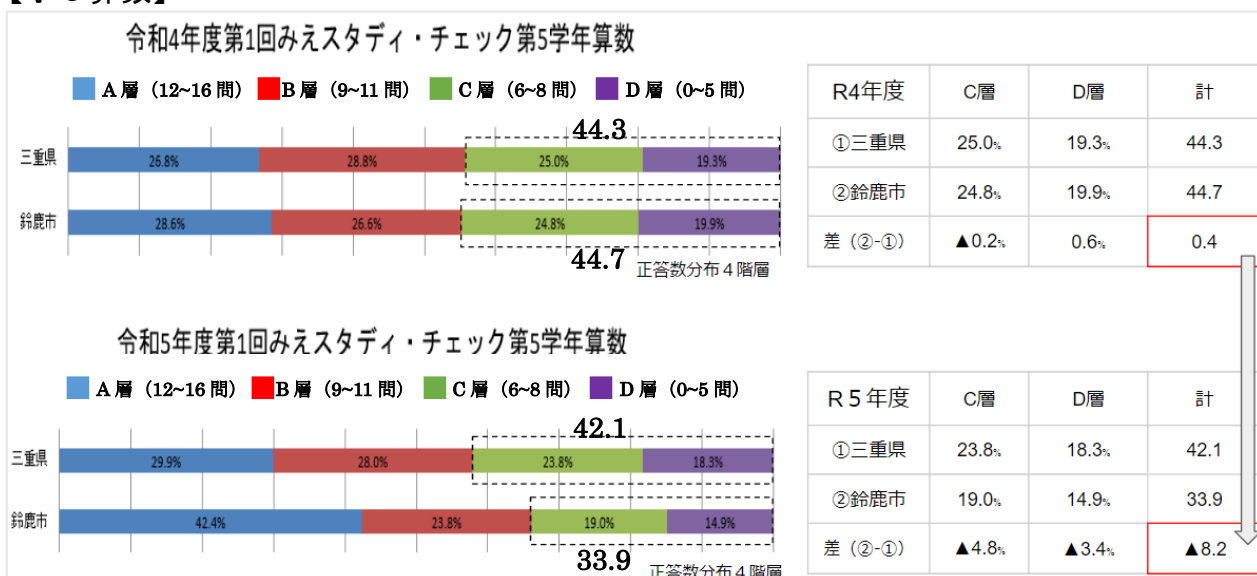
【成果】

- ・小学校では、令和3年度以降、4年生・5年生ともに、国語、算数の平均正答率は、県の平均正答率を上回っており、4年生の国語（＋6.6）、算数（＋5.6）、5年生の国語（＋7.0）、理科（＋3.7）については、県との差が最も開いた。
- ・中学校においても、1年生・2年生ともに、令和5年度は、実施された3教科全てが県の平均正答率を上回っている。2年生の数学は、初めて、県の平均正答率を上回る（＋2.7）結果となった。
- ・設問別では、例年、課題となっている中学校2年生の数と式、図形領域に係る問題は、全て県の平均正答率を上回っている。
- ・記述式問題の無解答率については、小学校は4年生・5年生ともに実施されたすべての教科で県の無解答率を下回っている。
- ・正答数分布4階層の割合を昨年度と比較すると、小学校、中学校ともC層・D層の割合は、減少している。（下表参照）

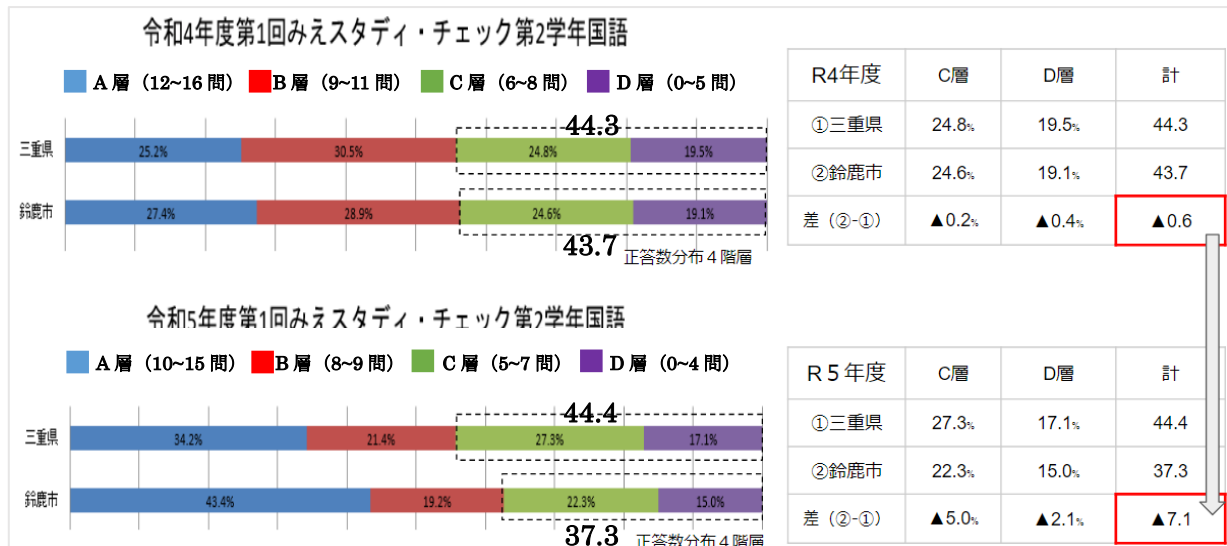
【小5国語】



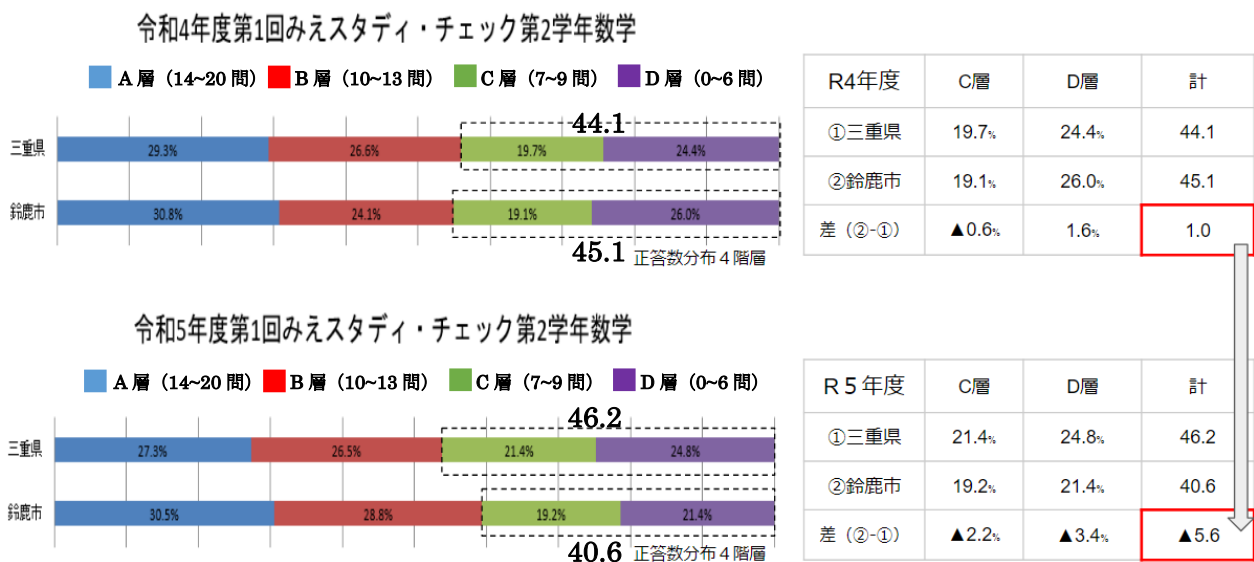
【小5算数】



【中 2 国語】



【中 2 数学】



【課題】

- ・ 中学校では、1年生の国語以外は、記述式問題の無解答率が県の無解答率を上回っている。（理科は、記述式問題2問の内1問は、県と同数値）

2 課題に対する今後の取組

記述式問題については、自分の考えをまとめたり、指定された文字数で要約したりする学習を教科横断的に展開するとともに、ワークシートを活用した取組の充実を図る。

また、自分の考えや思いを文章で表現するためには、語彙を増やす必要があることから、管理職のリーダーシップの下、各校の図書担当者や学校図書館巡回指導員と連携しながら、学校全体で読書活動を推進していく。

3 重点取組

学力向上に向け、今年度は「授業力 UP5★を活用した授業改善」「読解力向上に向けたワークシートの取組」「学力分析シートの取組」の3点を重点取組としている。

令和5年度 学力向上の重点取組

授業力UP5★

- ・5つの視点から授業改善の取組を進め、子どもたち一人ひとりの学習内容の着実な定着と学習指導要領が目指す資質・能力の育成を図る。
- ・指導主事は、「授業力UP5★」に基づき、教員に対して指導助言を行う。

読解力向上ワークシート

- ・小学校低学年は、「音読・視写」教材、小学校中学年は、「無料の新聞記事」教材、小学校高学年から中学校2年生までは、新聞記事教材「よむ YOMU ワークシート」等を通して読解力の育成を図る。

学力向上分析シート

- ・学力向上に係るPDCAサイクルを確立するため、市内統一の学力向上分析シートを活用し、自校の学力の成果や課題の取組状況を分析するとともに、読書時間やスクリーンタイム、家庭学習等の生活習慣の見直しに向けた取組を推進する。
- ・分析結果に基づき、各校独自の学力向上に係る取組を推進する。

【参考】令和 5 年度全国学力・学習状況調査に係る自校採点結果(数値は県の平均正答率との差)

令和 5 年度 全国学力・学習状況調査について

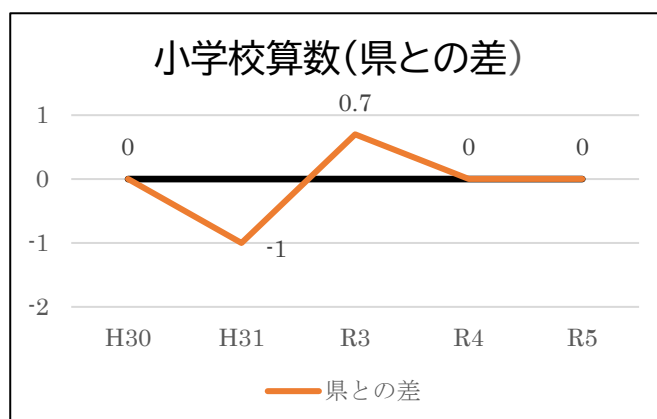
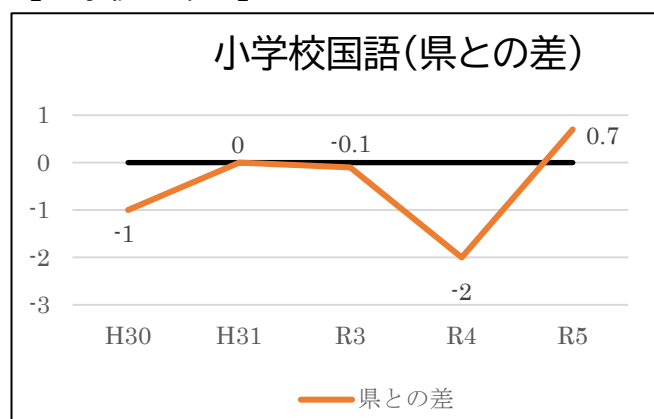
- 1 対象学年 小学校 6 年生・中学校 3 年生
- 2 自校採点 児童生徒一人ひとりの学習内容の定着状況を把握するとともに、結果を分析し、早期に教育活動の充実と授業改善を図るため、本市では、1 学級以上の自校採点を実施している。

県内自校採点校数 小学校 207 校/350 校

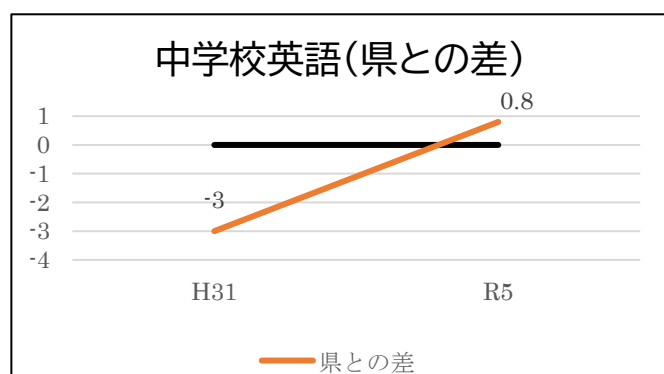
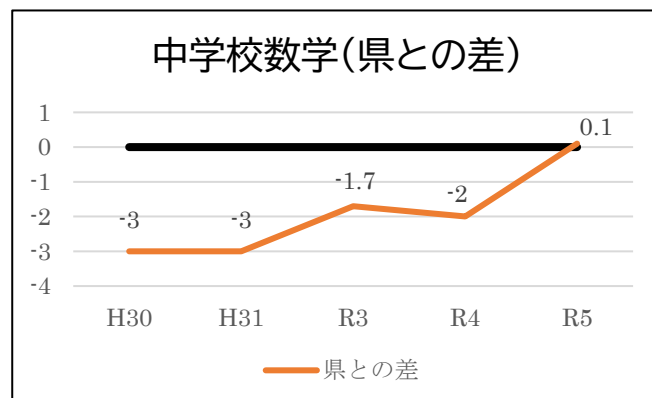
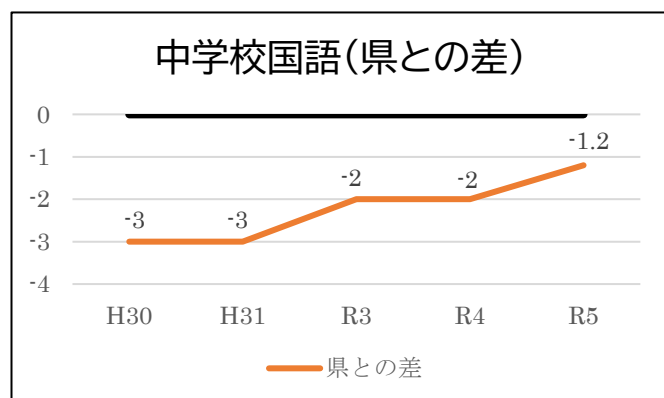
中学校 66 校/150 校 (6 月 13 日現在)

- 3 グラフの見方 R 5 は自校採点時の差

【小学校 6 年生】



【中学校 3 年生】



(※英語は、H31 と R5 に実施)